

団体名	所在地	事業名	事業概要
一般社団法人あいのいえ	読谷村	子ども及び若者の自立援助事業	<p>近年、予測困難な時代の到来とともに、子どもや若者を取り巻く環境は厳しい現状にある。その中でも小中高生の不登校の問題は深刻な喫緊の課題であり、不登校が長期化し、ひきこもりに移行することも想定されることから、社会復帰を鑑みるとその道のりは計り知れない時間を要すると考える。依って、社会的孤立が生じている子どもや若者に対して、急務にその環境や状態から脱却するような機会と環境を提供することが大人の責務であると捉える。当法人はそのような経緯を踏まえ、子どもや若者たちの社会的自立を援助する活動を展開する。具体的な活動内容として、まずは、安心する居場所を提供する中で、信頼関係を構築し、個々のニーズに応じて、生活支援や学習支援、体験活動、就労支援、訪問支援、また対象者である子どもや若者、保護者を対象にした相談業務などを行う。その際、対象者の主体性を重んじることを優先にする。対象者が一歩ずつ踏み出すことで、人や社会とつながる喜びを実感し、自己存在感や自己肯定感を育むことに繋げる。そのような過程を踏まえることで、子どもや若者たちは、自分の未来に向かって、自己実現が図られ、これからの社会の創り手と成り得ると考える。「誰一人取り残さない。みんなでみんなの子どもを育てる社会」地域共生社会の実現の一助になれる事業をめざす。</p>
一般社団法人きっずまある	与那原町	体験でつながる不登校支援事業	<p>①取り組むべき社会課題▶不登校（しぶりも含む）に悩む子どもとそこに関わる大人の支援 不登校（登校渋り含む）の子には、明確な理由がなく本人も困惑しているケースが多い。またそれにより周囲の大人がどう対応してよいか悩み抱え込んでしまい、状況を悪化させてしまうケースが少なくない。子ども本人は「どうしたいか分からない」、その子に関わる大人は「どう対応したらよいか分からない」という悩みを抱えている。</p> <p>②課題に対してどのような活動をし、どう貢献するのか▶子ども達の「体験」を通じた学びの提供 昼間の居場所を運営し、出会った子ども達を通して感じるのは「体験すること」の大切さ。経験が足りないから自分の選択肢が少なくなるし、体験が少なく不安感が強いことから新しい挑戦はしたくないし、だから学校へ行かない、何がしたいか分からないという悪循環につながっていると感じる。実際に、ただ場所を提供し誰かが対応するという居場所スタイルよりも「料理体験」「グランドゴルフ」「サイクリング」などの体験活動やイベントを企画した際には、子ども達の利用率もぐっと増え、少し家に引きこもりがちになっていても参加してくれるパターンが多い。自分で体感することで「未知なる世界」への恐怖感を軽減し料理、外遊び、色んな人との交流など多岐にわたる体験活動の企画や運営を通して、本人が主体的に学ぶ姿勢や学ぶ目的を見出せるようサポートすることで、本人の「どうしたいか分からない」の解消を目指す。</p> <p>③その他▶子どもに関わる大人の理解力や対応力アップと心理的サポート 特に保護者に関しては、相談できる場所や人がいることで安心感が生まれる。また、地域の人や学童職員などの対応力アップのために相談会や勉強会などを行い、子ども達が地域で安心して過ごせる居場所の構築を目指す。</p>

<p>一般社団法人こばんち</p>	<p>那覇市</p>	<p>こばんち不登校支援2024</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの居場所活動の一環として、新たに不登校児童を支援する環境、体制を構築します。 ・地域において放課後 子ども達が自由に利用できる居場所として週5日開所します。 ・マルチ型の居場所として多様な活動（子ども食堂、学習、保健教室、エイサー、クッキング、制作等）を用意し、子ども達が足を運ぶきっかけを増やしながら、不登校児童が学校に戻る機会として友達との交流をサポートします。 ・不登校児童の保護者が孤立することがないよう、保護者交流会の定期開催を行い安心感の向上を図ります。必要に応じて個別相談にてメンタルケアのサポートをいたします。 ・アセスメントシート・個別支援計画書の作成し、関係機関と連携しながら、不登校児童の個々に寄り添ったサポート体制を構築し支援します。 ・学校指定のタブレット学習をサポートしながら、必要に応じて教育ICTを活用した学習支援環境を整備し、振り返り学習や学びの遅れ・発達特性に応じた基礎学習のサポートをします。 ・古波蔵地域において子どもに関わる関係機関、学校・民生委員・SSW・CSW・児童館・子どもの居場所・包括支援センター・教育委員会等とつながり、顔の見える地域連携ネットワークを構築し、定期MTGを開催を目指します。 ・上記事業を行うため、事業責任者（代表）1名の他、事業担当者2名、事業担当補助3名、調理担当1名、経理担当1名、総務担当1名の体制をとります。
<p>一般社団法人3ピース58</p>	<p>沖縄市</p>	<p>今こそ立ち上げ!! 誰一人取り残さない地域で 持続可能な子育て支援ネットワーク構築事業</p>	<p>沖縄市における子どもの貧困や不登校児童・生徒の問題は複雑で解決には時間がかかります。しかし、関係機関が連携し地域住民の理解を得ながら、子どもたちへの支援を強化していくことで、課題解決に向けて一歩ずつ進めていくことができると私共は考えています。</p> <p>生活困窮家庭やひとり親家庭への支援として食料・生活必需品の支援などを実施し、学習支援としてオンライン学習環境の整備を進め、放課後や長期休暇中の学習支援プログラムの実施、子どもの居場所事業として子どもたちが安心して過ごせる居場所づくりを進め、地域のボランティアや民間団体との連携を強化します。</p> <p>親への支援として子育てに関する相談窓口の設置、育児支援プログラムの提供などの支援を充実させ、就労支援や経済的自立支援を沖縄市就職・生活支援パーソナルサポートセンターと協働で実施します。</p> <p>不登校児童・生徒への支援として、個別の学習指導やカウンセリングを行い不登校児童・生徒のニーズに合わせた支援を提供、不登校の子どもたちが安心して過ごせる居場所を提供し学校、児童館、公民館の連携を強化します。</p> <p>また、学校復帰に向けた支援を行う適応指導教室を充実し社会復帰に向けたプログラムを提供する。</p> <p>この他に不登校児童・生徒や保護者への相談体制を強化し専門家による相談支援を提供。</p> <p>私共におきましても、不登校児童・生徒への対応方法に関する職員への研修を実施し職員の負担軽減のための体制整備を行います。</p> <p>関係機関との連携として、私共と行政、学校、地域民間団体などが連携し子どもたちへの支援を強化していくことが重要であると考えており、地域のネットワークを構築し、情報共有や共同事業を進めたいと考えています。</p> <p>子どもの貧困や不登校の問題は、地域全体で取り組むべき課題であることを広く理解してもらう必要があることより啓発活動や理解促進のためのイ体験学習、地域イベントなどを開催します。</p>

<p>一般社団法人おーきな笑</p>	<p>うるま市</p>	<p>悩む子ども達が頼れる大人を探し生きる力を見つける支援事業</p>	<p>本事業ではうるま市の島嶼地域の小学生を対象に下記のことを実施します。 ①送迎付きの学習②体験活動③日中の居場所の提供 対象:家からは出れるが学校へ行けない、行かない選択をしている不登校や行き渋りとなっている子ども達 頻度:週に3日、4時間程度 開催場所:島嶼地域内の旧学校などの施設や公民館を想定 活動目的:学習支援・食事支援ができる居場所の提供を行い、生活リズムの安定化や学習の遅れ対策、体験の機会を作る。また放課後にも誰でも来れる居場所を開催することで不登校予備軍の子ども達が気軽に相談できる居場所を開催する。 日中の食事支援としてスタッフと子ども達が共に献立を作り買い出し、調理、片付けまで行うことで生きる力、体作り、生活習慣の流れを作る。また体験学習として子ども達のやってみたい・行ってみたい・挑戦してみたいに寄り添い小さな成功体験から社会へ繋がっていきけるよう環境作りを行う。 学習支援として紙媒体でのプリント学習からパソコンを活用し調べる、アプリを活用し学ぶ、オンライン学習会に参加してみるなどレベルに合わせて子ども達と共に向き合う。年度の後半には島嶼地域のみならずうるま市全域へ角川ドワンゴ学園と市教育委員会が2020年から続けている取り組みで、小中学生対象に島を出なくても最先端のICTを学ぶことができるネット部活へも繋いでいけるよう取り組む。行き渋りの子どもや不登校気味の子ども達が気軽に話せる友達や大人・相談ができる人がいることを知り、たくさんの人に関わって行くことで子ども達の刺激となり、親・学校の先生以外で相談できる人を作り、更には体験学習を活用することで新たな自分自身の道を見つけるきっかけや社会と繋がっていきける環境を提供する。地域で子ども達を見守れるよう地域の方と協力しチームを組んでサポート、各種関係機関とも話し合いができるよう環境作りに取り組む。</p>
<p>一般社団法人タコライ斯拉バース</p>	<p>那覇市</p>	<p>安心した居場所での学習支援と安定的な食事を提供する支援活動</p>	<p>不登校児を不安感・空腹感・孤独感から救うため、多機能的な居場所を作る。 那覇市内の校区を5つのブロック（首里、真和志、真和志南、本庄、小禄）に分け、その中の本庁ブロック〔開南小、泊小、壺屋小、若狭小、神原小、城岳小、天妃小、那覇小）を対象地域とし、更に行政・官公庁との連携に適した立地において、「こども食堂」店名“三食堂”の運営を行う。 不登校児のみならず、ひとり親世帯や低賃金家庭の親子が安心して過ごせる多機能的な居場所として活用し、ニーズに合わせて、健全な社会参画に向けた学習支援を機能させる。</p> <p>1 食の提供</p> <p>(1) 沖縄県の中心という立地を活かし、朝または昼の食事の提供を行う。 (2) 常時、健康を促す食事の提供が行えるよう、定番としておにぎり、煮卵、タコライス等を用意する。 (3) 気軽に持ち帰れるように持ち帰り窓口を設置する。 (4) みらいチケットの導入により、持続可能な食事提供の循環を確保する。</p> <p>2 多機能的な居場所の開設</p> <p>(1) 店内に個室のスペースを確保する。 (2) コミュニケーションが必要な場合に応じて相談員が対応する。 (3) 必要に応じて、寄り添った身体の調えを行う。</p> <p>3 学習支援として</p> <p>(1) 共同支援団体との連携のもと、対象者のニーズに合わせた学習プランを提案する。 (2) 実際の学習支援の流れとして、同店舗に常勤する相談員は、 (ア) 丁寧な対象者へのヒアリングを実施する。 (イ) 継続的な対象者と相談員との関係性の構築を目指す。 (ウ) 対象者の希望のもと、共同支援団体と連携した学習プランを実施し、子どもたちの円滑な進路サポートにつなげる。 (エ) 継続的な学習支援に向け、専門家のアドバイスのもと、数カ月間後のゴール設定を行うなど、ビジョンを明確化する。</p>

<p>一般社団法人レアーズ</p>	<p>読谷村</p>	<p>多様な学び・多世代交流の地域連携構築事業</p>	<p>不登校児童・生徒、引きこもりの子どもは全国的に年々増加しています。私たちの活動地域である沖縄県中頭郡読谷村でも、年間90日以上学校を休む児童・生徒は年々増加しています。(読谷村青少年センター・小中学校との情報交換)</p> <p>読谷村内の不登校児童の居場所は少なく、交通の不便さから、なかなか利用に繋がらない状況やアウトリーチ等の支援がない事、またスクールソーシャルワーカーがいない事から、学校で把握している情報をどこに情報共有や支援の連携、サービスに繋げるか分からないという状況があります。</p> <p>当法人は、このような社会課題に対し、当法人の強みでもある地域連携を活かし、さまざまな関係機関・企業・自治体・地域の方々に「不登校児童について考えるきっかけ」「互いの強みや出来る事の掘り出し」「地域ネットワーク構築」「定期的な地域円卓会議」等を行い、当法人だけでなく地域で支え合う体制整備や新たな社会資源の開発を目指していきます。</p> <p>現在取り組んでいる「こどもの居場所づくり事業」に新たな機能を加え、当校児童に対し個別支援計画書の作成、モニタリングの実施、アウトリーチ支援・様々なケースに対応できる環境整備・多様な学び（学習支援（タブレット）・体験活動・多世代交流・お仕事体験・農作業・スポーツ活動）の提供、学校以外で同世代の子ども達と交流ができる機会を創ることや地域の大人と交流する機会の提供を行います。また、誰でも気軽に来れる空間を提供し、保護者と関わるきっかけづくり、関係を築き、保護者のレスパイトや不安解消に向けた相談援助を行っていきます。</p> <p>これまでの活動の中で出会った児童・生徒、保護者やこれから出会う方々が、それぞれの個性や特性が尊重され、安心安全に過ごせる空間や好きな事、目標に出会い活躍できる場所を創っていきたいと思います。</p>
<p>meme</p>	<p>北中城村</p>	<p>地域と行政のパートナーシップを基盤とした不登校児のための地域の居場所作り事業</p>	<p>当団体のある北中城村は沖縄県中部に位置する人口18,000人ほど、公立の小中学校は3校のみ生徒数1,700人程の自然豊かな村である。活動を始めた2022年よりコロナ禍での子育てコミュニティ構築事業で当団体が連携してきた教育委員会、社会福祉協議会、村議会、地域の事業所、民間団体等に協力を仰ぎ、行政と地域のパートナーシップを基盤とした不登校児の支援体制の構築を目指す。2023年度に実施した行政との情報交換会では、村内の不登校や行き渋りの児童は年々増えており、沖縄県内の他市町村より多い傾向があるとの話が出たが、その実態把握には至っておらず、地域の受け皿も少ない。日中の過ごし方等の選択肢が少ない不登校の児童にとって学校とも地域とも繋がれていない状態は、必然的に学習や集団での活動の経験値が減ることを意味し、自己否定感や、親の不安感の増大にも繋がりがやすい。また不登校がネガティブに捉えられがちな地域社会の現状もあり、本事業では以下の項目を実施することで不登校児が様々な学びの機会をなくしたまま地域で孤立することを防ぐ。</p> <p>①村内の実態把握のためのアンケートの実施②課題解決のための関係機関の連携強化③地域が「教室」の役割を担えるための人材育成④不登校児とその家族の心の拠り所作り。地域の実情を把握し、教育委員会の教育相談員がアウトリーチを行う他、地域の児童館を拠点として当団体のスタッフが、不登校児とその家族への相談支援を行いながら地域連携のコーディネーターとなり各事業所へと繋ぐ。また月1回を目安に関係機関及び地域の事業所が集まり不登校に関する研修会や情報交換を開催し、この地域特有の課題と照らし合わせながら、この地域には頼っていい大人と自分がいい場所があることを不登校児が体感できることを目指し、社会に出ていくための経験値と信頼感、自己肯定感を高める経験ができる地域の居場所の構築を目指す。</p>

<p>特定非営利活動法人にじ子屋</p>	<p>うるま市</p>	<p>みんなの居場所 「HUB.OKI.LOVE」</p>	<p>①現状認識と今後の方針 個人事業から始めた活動期間3年間の中で、支援コンテンツや協力者のネットワークづくりが進み、不登校生支援のための仕組みが固まりつつある。本事業では法人化をきっかけにこれまで培ったノウハウ・ネットワークを活用し、事業の幅を広げていくことを計画。「経済的に当スクールに通えない児童・生徒向けのサポート体制の強化」と「若者の社会復帰・社会進出支援」を目的としたコミュニティ事業の立上げに取り組む。</p> <p>②児童・生徒向けサポート体制の強化 当スクールは国籍・人種・障がい等に関係なく、それぞれの個性を生かせるダイバーシティーなフリースクールを目指しているが、経済的な理由で当スクールに通えない子どもも多くいると思われ、支援は十分に行き届いていない。本事業ではこの課題の解決に取り組む。地域の子どもが集まる場として、現在行っている子ども食堂の取組み、「ちきゅう屋食堂」の活動をベースにスクール生向けコンテンツを地域の子ども達向けにも開放。子育て相談や若者の情報交換なども活発化させながら、子どもたちの自立支援を目的とした地元の大人・事業者とも連携した地域コミュニティを創出する。</p> <p>③若者の社会復帰・社会進出支援 上記コミュニティは不登校経験者等で社会に馴染めず仕事の継続が困難な若者の社会復帰の場としても活用していきたい。当スクールのスタッフは元不登生が中心。当スクールは活動を通して若者の社会復帰支援も担っていると捉えている。活動の幅を広げるため積極的にこういった若手人材をスタッフとしても採用予定。子ども向け企画を実行する中で、社会復帰・進出の第一歩としての役割を担わせていきたい。また、本取組みは当スクールの広報活動にもなるため、スクール生の増加効果も期待できる。事業期間1年間でスクール生も増やしていき、事業として雇用・コミュニティの継続に向けた仕組みづくりを進める。</p>
<p>株式会社ワンスペース</p>	<p>浦添市</p>	<p>オンライン教育プログラム ×地域連携で「つながる支援」プロジェクト</p>	<p>浦添市を起点に小中学校や適応指導教室、居場所支援施設、学童、児童館等と連携し、キャリアの視点を中心とした教育プログラム（オンライン職場見学、おしとご体験イベント、出前授業や学習支援の配信等）を提供します。地域から取りこぼさず子ども達を育て支える環境を作るために、多様な学習の機会や体験活動のコンテンツを構築し、特にオンライン配信時のプログラム構成やカメラワークなどを意図的に設計することで、様々な視点や角度から、イキイキと楽しそうに働く大人の姿を見てもらい、地域の魅力や将来（仕事や大人）への興味関心のきっかけとなる工夫を取り入れます。心がワクワクした子ども達の「学びたい」を学習支援塾との連携でフォローし、つながりを切らさない支援で地域との連携や共有を図ります。オンラインプログラムの軸となる「オンライン職場見学」は、2023年度休眠預金活用事業の「子ども達の体験保障」をテーマとした事業でオンラインの価値を実証し、高い評価を得ました。また、欠席児童が自宅から参加した事例や他校との学び合いが大きな副産物となり、不登校児童を支えるコンテンツとして可能性が広がるという意見もいただきました。弊社が実績を積んできたキャリア教育支援とオンラインを掛け合わせた教育プログラムの実施により、これからの時代を生きる子ども達の学びに重要視されている「なにを、どう学ぶか」を具現化します。オンラインによる教育プログラムは、一步を踏み出せない子どもたちにとって参加へのハードルが低く、学びに向かう呼び水となると考えます。弊社の強みでもあるキャリア教育コーディネーターやSSW、コミュニティーナースらとのワンチーム、さらには、長年にわたり地域との連携活動を構築してきた一般社団法人まちづくりうらそえとの連携を中心に、課題を抱える児童や保護者等と「つながる支援」からのコレクティブインパクトチームの形成を目指します。</p>

<p>特定非営利活動法人シンコー ション</p>	<p>浦添市</p>	<p>サウンド プロジェクト 2024</p>	<p>1：不登校児童・生徒の支援として既存施設児童館を活用した活動 (1) 子ども食堂での食事支援（会食・パントリー） (2) 学習支援（来所対面方式・ICT活用型・オンライン型） (3) 学習に取り組む以前の社会生活の体験（対人コミュニケーションの積み重ね）</p> <p>2：子ども貧困解消のための体験活動 (1) 音楽管弦打楽器の体験による支援活動（プロオーケストラ団員・県立芸大学生による直接指導）と成果発表会の実施。ベネゼエラ発祥「エルシステム沖縄版」を目指し、家庭環境に左右されることなく質の高い教育を受ける権利を履行する。 (2) プロダンサーによる「ダンスクラス」の実施。コミュニケーション不足な子どもたちの中には「身体を動かす」ことにより心身の不安から解放される傾向がある。動の活動も取り入れより多くの子どもたちを支援したい。</p> <p>3：社会課題に取り組む若者支援策として (1) 大学生との協働により、不登校児童生徒の支援方法、学習支援のコンテンツ開発、ICTツールの活用方法などを開発する。 (2) 社会課題に取り組む若者世代が不安なく活動を継続できる環境作り（ネットワーク）のために研修会、情報交換会、視察を実施する。</p> <p>4：上記1から3の取り組みを網羅しコレクティブインパクトに見える化する。 (1) 自団体だけでなく、県内同様な支援を行う団体との学習会、専門家による支援を受ける機会、行政、地域、企業を含めた集団でのワークショップの開催。</p> <p>5：活動を有効かつ持続的にしていくための自団体組織基盤強化とファンドレイジング (1) 自団体は2名の准認定ファンドレイザーを有しており、自団体の組織基盤強化に取り組むため専門家（会計士・税理士・社労士など）からの支援を受けながら資金獲得のための広報活動に力を入れる。 (2) ガバナンス・コンプライアンス・第3者評価を受けるための取り組みを行う。</p>
------------------------------	------------	-----------------------------	---

※事業概要等 申請書からそのまま転記